

第45回BCP維持管理研究会 議事録

1. 日時： 2014年7月17日(金) 16:30-18:30
2. 場所： トッパン・フォームズ社 会議室
3. 出席者(敬称略) 12名
深谷(書記)、中谷、平川、橋本、竹中、清水、和田、内田、高桑、高橋
(オブザーバ) 五十嵐、岡林、
4. 内容
 - (1) 研究会メンバ自己紹介 (現時点では27名登録)
 - (2) 10月の訓練(演習)内容の意見交換
 - ・訓練を行うにあたってのポイント説明(中谷)
(台風・大雪のケース)
 - ・今は規定がもれている。
 - ・出勤停止の判断、特別警報が出た時の対応が遅れがち。
 - ・時系列で被害状況が変わるケース
 - ・地震のような突然ではなく事前に準備する時間的な猶予があるケース
 - ・除雪など行政との交渉は、大雪警報が出た後ではできない
 - ・2-3日で準備できるケース(予報発令後できる)とできないケースを考える
 - ・新型インフルなどでも同じ
(訓練対象・前提)
 - ・人が多い本社被災時の初動
 - ・離れた2か所の情報整理
 - ・地震のケースはレスナウの市川氏の話を参考にしたい(オフィス防災EXPO)
(架空の会社)
 - ・東京ドームよりは、誰でもイメージできるショッピングセンターなど
 - ・TDLなどを想定した別業界の訓練を経験したい。異業種で別の視点を経験する。
 - ・マンション防災などにも使える
 - ・IT関係など、メンバの所属会社に近い方が持ち帰れる
 - ・製造、物流なども身近でよい
 - ・模擬会社に関しては業態、売上比率など緻密な想定が必要ではないか
(ワークショップでの役割)
 - ・BCPを指導し訓練する立場での参加したい
 - ・訓練を企画する経験をしたい。ファシリテータを希望する。(高橋、平川)
 - ・2回の訓練で役割を変える(プレーヤーとファシリテータの両方を経験する)
 - ・ワークショップ班ごとに係を決めるのがよい。情報収集係、本部長など
 - ・各係が何をするかは、各社のケースを持ってくるのもよいのではないか

・プレイヤーの役割を当日ではなく事前にきめて、事前に学習しておく必要はないか。

(3) 訓練にコーチング的関わりを取り入れた事例紹介（深谷）

- ・研修の効果測定 4 段階モデルをBCP訓練に適用
- ・企画担当者(コンサル/ファシリテータ)の関わり方と効果

5. 次回開催

2014年9月25日(木) 16:00-18:00

レスキューナウ オペレーションセンター見学

※8月 休会

※10月 初動対応訓練の実施 場所：青山 SCSK

以上